



令和 2 年 2 月 28 日

教育学習支援センターの設置について

本学が取り組むスーパーグローバル大学創成支援事業において、教育の国際的通用性確保のため、SERU (Student Experience in the Research University) の枠組みにより、本学の到達目標型プログラム (HiPROSPECTS®) の国際的視点からの質保証評価 (ピアレビュー) を実施し、大学教育の改善に努めてきました。

さらに、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)」 (平成 30 年 11 月 26 日中央教育審議会) において、2040 年の展望と高等教育が目指すべき姿として、「学修者本位の教育への転換」が示されており、その実現すべき改革の方向性では、「学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること」と示されています。また、「学び」の質保証の再構築として、全学的な教学マネジメントの確立が示され、これを実現するためには、アクティブラーニングの活用や授業科目の精選を通じて、密度のある主体的な学修を提供できる環境を整えると共に、学修成果の可視化等を通じて学生自身も学修の成果を実感できるような仕組みを提供する必要があります。

これらのことを踏まえ、令和 2 年 4 月 1 日に教育室に「教育学習支援センター」を設置し、学生の主体的な学びを促進するとともに、学生自身が学修の成果を実感できるよう、意義ある学習経験を生み出す大学環境づくりを支援します。

【お問い合わせ先】

広島大学教育室教育支援グループ 角田 (スミタ)
TEL:082-424-6151 E-mail: kyoiku-gl@office.hiroshima-u.ac.jp

教育室「教育学習支援センター」の設置について

■設置目的・背景

スーパーグローバル大学創成支援事業において、教育の国際的通用性確保のため、SERU (Student Experience in the Research University)の枠組みにより、本学の到達目標型プログラム (HiPROSPECTS®) の国際的視点からの質保証評価(ピアレビュー)を実施し、大学教育の改善に努めてきた。

さらに、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(平成30年11月26日中央教育審議会)において、2040年の展望と高等教育が目指すべき姿として、「学修者本位の教育への転換」が示されており、その実現すべき改革の方向性では、「学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること」と示されている。また、「学び」の質保証の再構築として、全学的な教学マネジメントの確立が示され、これを実現するためには、アクティブラーニングの活用や授業科目の精選を通じて、密度のある主体的な学修を提供できる環境を整えると共に、学修成果の可視化等を通じて学生自身も学修の成果を実感できるような仕組みを提供する必要がある。以上を踏まえ、令和2年4月1日に教育室に「教育学習支援センター」を設置し、学生の主体的な学びを促進するとともに、学生自身が学修の成果を実感できるよう、意義ある学習経験を生み出す大学環境づくりを支援する。

■業務内容

- TA制度 (Hirodai TA) の企画・運用に関すること
- 授業に係る学生の学習相談・支援に関すること
- 教員向け授業・教材開発に係る相談に関すること
- 教育学習活動に係る情報収集・分析の支援及び情報提供・情報発信に関すること

■組織体制

教育学習支援センター

センター長 併任：理事(教育担当)
主担当教員
協力教員
エデュケーショナル・デベロッパー(UEA)※
契約一般職員
学生スタッフ

※授業方法・教材開発支援や学修支援学生を育成する専任職員

支援

教育部教育支援グループ

連携

連携

情報共有
研修協力

高等教育研究開発センター

- 人材及びリソース提供
・国内外の動向
・学外人的ネットワークの活用等
- 人材育成WS
- 知見に基づく展望の提示

各学部・関連センター等

人材育成本部
FD委員会
教育能力開発部会